

『 カルニチンの秘めたる多彩なパワー 』

肝臓川柳

『 カルニチン 治療効果に 歓喜挙げ』



(歓喜・・・肝機・・・肝機能・・・肝機能アゲアゲ↑)

まだなじみの少ない“カルニチン”という蛋白の働き、特に肝臓疾患に対する有用性について今回お話しします。

前回ご紹介したように“カルニチン”はミトコンドリアの働きに欠かせないものです。

“カルニチン”が欠乏するとミトコンドリアの機能が低下してしまい、

①尿素サイクル停止②脂肪酸酸化障害③ATP産生（エネルギー産生）低下が起こってしまいます

《・・・ということは》

①尿素サイクル低下によりアンモニアが処理されず

⇒⇒高アンモニア血症→肝性脳症増悪を来します

②脂肪酸分解低下により、脂肪肝が増悪しNASHを引き起こします

⇒⇒カルニチン投与により、肝硬変患者さんの肝性脳症に有用、

脂肪肝・NASH患者さんの肝機能改善、進行阻止に有用と言われてています

《さらに・・・》

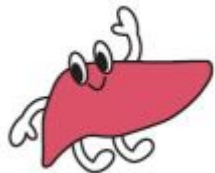
“カルニチン”は、血球（赤血球、白血球、血小板）の膜の脂質に影響し、血球を壊れにくくするため、C型肝炎のIFN、リバビリン療法の際の血球減少を阻止し、治療効果を高めると言われています。

《つまり・・・》

“カルニチン”には、肝硬変（肝性脳症）、脂肪肝（NASH）、C型肝炎の治療効果を高めるという肝臓疾患の改善に幅広い働きがありそうであり、大変注目を浴びています。

※NASH(ナッシュ)※

非アルコール性脂肪肝炎；お酒を飲まなくても、脂肪肝に肝炎が起こり肝硬変、肝癌に至る可能性のある病気です



これだけ覚えておけば損はない！

今 回 の ポ イ ン ト

カルニチンが欠乏するとミトコンドリアの機能が低下し、高アンモニア血症にて肝性脳症増悪をきたしたり、脂肪肝が増悪してNASHを引き起こす可能性がある。よってカルニチン投与は脂肪肝、NASHに有用、またC型肝炎でのIFN+RBV治療の際、血球減少を阻止し治療効果を高めてくれる。

(文： 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)